

マタイの福音書 第3章 3節

この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』』とされたその人である。

荒野で叫ぶ。誰が聞かろう。荒野のようなところを抱く者、すさんだ街で、生きるに苦しい場に在る者へ叫ぶ声である。主の道を開く叫び声である。荒野に立つ者のために真っ直ぐ来てくださる主の道を開く声である。主がその道を通り、荒野のところに届くなら、荒野の声は吹き抜けて消える。その行く末を受け入れ荒野で叫ぶ。

険しいところで生きなければならない街。厳しい土地で生きなければならないところ。そこに聞こえる荒野で叫ぶ声がある。険しいこと、厳しい地に生きながらなお聞こえてくる声がある。聞かなくてはならない声がある。声の背後には主が控えている。その主に期待する。もはや、ただの荒野の声ではないことが身に沁みてくる。

路肩の砂利の合間から春の徴、タンポポがのびている。辺りには植物のひとかけらも見当たらない。まさしく路肩の荒地である。さらには、行き交う車の排気ガスが絶えない、呼吸さえ妨げられる荒地である。そこに、黄色い花が一輪咲いている。ここにいのちがある。この地に深く根をはっている。聞こう、荒野に響くいのちの声を。